

Q 1 次に、高等職業技術専門校再編整備事業についてお伺いします。

津田サイエンスヒルズに設置を予定している北部校（仮称）は、今年の2月議会で、「南大阪校の例に倣い、できるだけ早期に開校できるよう、今後精力的に整備事業を推進する」と答弁されました。

事業の進捗状況としては、昨年度から人材ニーズ調査を実施されています。今年度当初には検討委員会を設置し、今後は基本構想の策定を予定されているところです。北部校（仮称）の設置にあたっては、地元のニーズに沿った技術専門校づくりが最も重要な観点でありまして、そのうえで、できるだけ早期に設置するべきだと思います。

地元のニーズをどのように把握し、どのように基本構想に反映させようとしているのか、また、検討委員会の進捗状況と北部校（仮称）開校までのスケジュールを説明してください。

A 1 （能力開発課長）

委員お示しのとおり、北部校（仮称）の設置にあたりましては、地元のニーズを反映させることが重要な課題であると認識しております。

そのため、基本構想の策定にあたり、北部校（仮称）の基本構想策定検討委員会を設置し、地元のニーズをより反映させられるよう、地元の商工団体や企業の代表に検討委員会の委員として参画していただいております。

さらに、昨年度に実施した地元の企業団地及び商工会議所に対する人材ニーズ調査や、今年度を実施した大阪府全域に渡る人材ニーズ調査の結果等を踏まえながら、北部校（仮称）が備えるべき機能をはじめ、訓練分野、訓練科目等についてご議論していただいております。

開校までのスケジュールといたしましては、今後開校に向けて、年内を目処に基本構想をとりまとめることとしております。来年度以降、基本計画、基本設計を実施するとともに建設用地の買収手続も進め、順次構想の具体化を図って参ります。

私どもといたしましては、引き続き、地元のニーズに沿った技術専門校を、可能な限り早期に開校できるよう取り組んで参ります。

Q 2 地元のニーズを踏まえ、現在、基本構想の策定に取り組んでおられるとのことですが、

基本構想を策定した後は、用地買収をおこなうとのことですが、北部校（仮称）の建設を予定されている津田サイエンスヒルズでは企業の立地が進んでおりまして、想定される区画は9 - B号地のみです。

この9 - B号地は、現在検討されている基本構想を実現するのに、十分な広さを有しているのでしょうか。

A 2 （能力開発課長）

北部校（仮称）の施設、設備の具体的な規模や配置については、今後、基本計画や基本設計の段階で検討することとなりますが、さまざまな工夫を凝らしながら、基本構想で求められる北部校（仮称）の機能が実現できるよう、9 - B号地を核として必要な建設用地を確保すべく努力し、整備して参りたいと考えております。

Q 3

先ほど、地元のニーズに沿った技術専門校づくりが最も重要であると述べました。

それは、具体的に、地元の中小企業が求める優れた人材を輩出し、中小企業における人材確保や企業内の人材育成を支援できる技術専門校の実現ということです。

そのためには、地元の企業と北部校（仮称）との連携が非常に重要になってきます。

先に開校された南大阪校については、積極的に地域連携を図ることとされ、民間企業の人材育成のため、府立の技専校としては初めて設置された「人材開発センター」が非常に好評であると聞いています。この利用状況はどうなっていますか。

また、北部校でも、地元企業等との地域連携の大きな柱として、人材開発センターを設置してもらいたいと思いますが、どうお考えでしょうか。

A 3 （能力開発課長）

技術専門校の再編整備にあたりましては、地元企業や経済界との地域連携を図ることが大きな柱となっております。

委員おたずねの、南大阪校の人材開発センターは、周辺企業の社員研修の場、技能検定の会場などとして活用していただいております。開校初年度である平成18年度においては約2000名の方にご利用いただき、さらに、今年度に入ってから需要が伸びており、3000名以上の方にご利用いただけるものと見込んでおります。

こういったことから、北部校におきましても、津田サイエンスヒルズや周辺の企業団地などとの地域連携を図るため、人材開発センターの設置について検討して参りたいと考えております。

Q4

この人材開発センターは、ハード面における地域連携の手段といえますが、技術教育や人的交流などのソフト面での連携も必要ではありませんか。

ハード面、ソフト面ともに、技術専門学校と地元とが互いに連携し、互いに利益を享受することができるような仕組みを作るべきであると考えますが、地域連携の具体的な方法としてどのようなことを考えておられるのでしょうか。

A4 (能力開発課長)

委員お示しのとおり、地域連携を図ることによって、技術専門学校が地域の中小企業における人材育成や人材確保を支援するとともに、技術専門学校と企業が互いに利益を享受するというような仕組みを整えていきたいと考えております。

具体的には、

地元企業等に対する支援方策といたしまして、

- ・ 1点目として、地元企業などで働いておられる方のスキルアップのためのテクノ講座の充実、
- ・ 2点目として、地元企業等の人材育成やキャリアアップのための情報発信・相談機能の充実、
- ・ 3点目として、地元企業等に対する技術指導のための指導員の派遣

をおこなう一方で、

地元企業等からご協力をいただきたいものとして、

- ・ 最先端の技術を持った技術者を職業訓練の講師として招聘したり、
- ・ 技術専門校の生徒が地元企業等の生の現場を見学させていただくような仕組みを整えたいと考えております。

これらのことを通じ、ハード面、ソフト面、両面における地域連携の拠点として北部校の整備を進めて参りたいと考えております。

まとめ

枚方市には、津田サイエンスヒルズをはじめ多くの企業団地が存在し、優秀な企業が集積しています。地元では、企業が求める人材育成や人材確保が進展するものと、北部校の設置に大きな期待を寄せています。

人材ニーズ調査の実施や、地元の代表者を招いて検討委員会を開催されるなど、地元のニーズを踏まえて基本構想を策定されているとのことではありますが、産業拠点に立地するという利点を最大限に活かして、地域連携を図ることを通じて、地域のニーズに沿った技術専門校を作り上げることが非常に重要です。

また、地域連携を図ることによって、質の高い訓練が実現し、そのことが地元企業のニーズに合致した優秀な人材を輩出することにつながります。まさに相乗効果を生みだすことができるものであると確信しています。

さらに、若者の、ものづくり離れが問題視されている中、例えば近隣の小中学校や高等学校などでの「職業教育の実践の場」として北部校(仮称)を利用できれば、学生の職業観の醸成やものづくりの大切さを実感させることができるのではないのでしょうか。

今後とも、地域のニーズに沿った技術専門校の実現に向け、積極的に取り組んでいただくよう要望します。